まちの話題

今年も海の季節が始まった！
―西原マリンパーク海開き―

4月16日、西原マリンパークが海開きを迎え、祈願祭が行われ、スタッフ、関係者ら60名以上が出席、夏を前に安全を願いました。今シーズンの開幕を受け、西原マリンパークの指定管理を受けている（株）クリード沖縄の玉城芳信代表取締役が「昨年は45万人の方が来場し、無事故で乗り切れた。今日が今年の新しい出発になる」と本格的な観光シーズンを前に抱負を語りました。

西原町婦人連合会に新しい風を
―あなたの声をきかせて―

西原町婦人連合会（長崎信子会長）は婦人会活動の活性化に向け、広く意見交換することを目的に、「西原町婦人連合会に新しい風を～あなたの意見を聞かせて～」を4月27日、町中央公民館で開催しました。町婦人連合会では、地域との繋がりの希薄化や会員数の減少などの課題解決をめざして、組織強化検討委員会を立ち上げ議論を重ねており、今回その中間報告がされました。同委員会の委員長を務める大城貴代子さんは「社会情勢の変化に伴い、女性の活躍の場が多様化してきた中で、女性団体の草分けである婦人会活動の活性化はとても重要」と趣旨を説明。来場者も参加したワークショップでは、各グループで活発な議論が展開され、「無理のない活動を」や「目的意識を共有し、権利だけでなく責任を持って取り組んでは」などの意見が提案されました。

町内各地でこいのぼりが舞い上がった
―こいのぼりのように元気な子に育て―

5月5日のこどもの日を迎え、町内のあちらこちらでこいのぼりがあがる中、各保育所や児童館でもこいのぼり掲揚式が行われました。5月2日に西原東児童館で行われた掲揚式には、西原東幼稚園の園児が招待され、高々とこいのぼりが上げられました。

なぎなたの功績を記念し、石碑を建立

西原東中学校でなぎなたの功績を後に伝えるため、記念碑を建てました。記念碑の製作は、去る3月に卒業したなぎなた部員が美術教師と相談して設計し、構想から10ヶ月、1ヶ月ほどの製作期間を経て完成しました。完成した像は、なぎなたを振り下ろして面を取った姿をイメージしており、高さ1.6ｍの立派な像です。西原東中はこれまで、なぎなた部が全国大会で団体・個人含めて8回優勝しており、特に演技競技は平成18年から20年まで3連覇という輝かしい実績を残してきました。また、かつて選手として活躍した人が指導者となり、小学生など後輩を育成するサイクルができつつあります。今後も「なぎなたのまち」として、西原町勢の活躍に大きな期待が寄せられています。

4月4日に石碑の落成式を実施

梅の香りうた遊び大会が10周年の記念大会を開催

字小那覇出身の作曲家、故新川嘉徳氏の功績を称え、同氏の代表作「梅の香り」を用いた「第9回梅の香りうた遊び大会」（「梅の香り」歌碑建立記念事業委員会・小那覇自治会主催）が4月30日開催されました。開催にあたり新里勝弘委員長は「今年は梅の香りの歌碑を建立して10年の節目にあたる。これからもできるだけ長く続けていきたい」と今後の抱負を語りました。平成19年のなかゆくい大会を合わせて10回目の記念にあたる今大会には町内外より、10歳から77歳までの幅広い出場者15組が、自慢の歌声を披露しました。あいにくの天候で会場が町中央公民館に変更されましたが、多くの来場者は心のこもった歌声に耳を傾けていました。今大会の大賞には伊波邦男さん（読谷村）が受賞しました。

各受賞者は次のとおり。（敬称略）

【大賞】伊波邦男（読谷村）
【優秀賞】又吉美恵子（浦添市）・田崎米子（宜野湾市）
【特別賞】新垣一代（北谷町）
【奨励賞】仲松愛莉（西原町）

最年少出場者で奨励賞を受賞した仲松愛莉さん

会場が変更になりましたが、たくさんの観客で埋め尽くされました。

また今回の大会は、「長寿社会づくりソフト事業費交付金」のイベント助成事業に採択されました。この交付金は地方自治体が関与し、高齢社会対策の推進を図るための人材の養成に資する事業等に交付されるもので、全国から多数の応募があるうち、イベント助成事業については沖縄県内から「梅の香り」うた遊び大会1事業だけが採択されました。

チャリティー展示即売会を開催
―西原町人づくり支援の会―

NPO法人西原町人つくり支援の会は、「第14回チャリティー展示即売会」を4月15日から3日間、サンエー西原シティで開催しました。同NPO法人はこれまで、町内小中学校へ図書の寄附や海外留学支援など、若者を支援する人材育成支援事業に取り組んできており、これらの事業費造成のため、毎年展示即売会を行っています。文化協会の会員を中心に出品された陶芸・書道・絵画などの作品が展示販売され、多くの買い物客が作品を買い求めました。

赤十字の社資にご協力を！
―赤十字奉仕団出発式―

国境・宗教・人種を超えた幅広い人道的支援に取り組む日本赤十字社の社資（活動資金）募集にあたり、西原町赤十字奉仕団（城間富子委員長）が4月26日、社資募集出発式を行いました。集められる赤十字の社資は、東日本大震災の被災地での救護活動に使われる薬品・器材・物資・派遣費用などにもあてられているため、例年以上に多くの協力が必要になっています。出発式では上間町長が第1号として、城間委員長が第2号として社資を寄附しました。5月は「赤十字社員増強運動」の月間となっており、各地域を担当する奉仕団員が募集の呼びかけを行いました。